

図書館員のひみつの本棚 第129回

明けましておめでとうございます。

新年最初の本は、読むと心があたたかくなる物語です。

『火のくつと風のサンダル』

ウルズラ ウェルフェル／作 関 楠生／訳 童話館出版 1997年
1512円

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年★☆☆ 小中学年★★★★ 小高学年☆☆☆ 中学生☆☆☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

チムは組一番のちびで学校一番のでぶの男の子。いつも学校でともだちにからかわれるので、チムはチムでいることが嫌になってしまいます。

そんなチムにお父さんが用意した誕生日のプレゼントは、新しい赤いくつと、旅じたくのすんだリュックと、新しい名前でした。お父さんは夏休みにチムと二人で旅に出るというのです。これを聞いたチムは大喜び。チムがもらった新しい名前は、「火のくつチム」。お父さんにも新しい名前がつきました。「風のサンダル」です。

くつなおしの仕事をしているお父さんは、チムとふたりでいなかを旅しながら仕事をみつけ、そのお礼に泊めてもらい、かせいだお金をお母さんに送ります。

お父さんはお話も得意でした。旅の途中でも、チムが川に落ちたときには「年よりの魚のお話」、チムが旅で出会った子どもたちに「でぶ」と言われた時には「黒い羊のお話」、チムがホームシックになったときには「おしまいのないお話」など、たくさんのお話をしてくれます。

<子どもに手渡す時のポイント>

中学年の児童にぴったりの物語です。大きな出来事が起こるわけではありませんが、物語の途中でお父さんのお話が入るという構成は、最後まで飽きることなく読ませてくれます。1961年に書かれたものですが、50年以上たった現在でも全く色褪せていません。中学年で本選びに迷っている子がいたらぜひ手渡してあげてください。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。